

新たな時代の創造

岩国市長

福田良彦



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、開港3周年を迎えた岩国錦帯橋空港は、開港当初から多くの皆様にご利用いただき、昨年9月には利用者100万人を達成するなど、好調な利用状況が続いており、かねてから国に要望していました、発着枠の2枠増枠も皆様がこの市報をご覧になる頃には、実現していることでしょう。

これからも関係機関と連携を密にし、より利便性が高く魅力ある空港となるよう、全力で取り組んでまいります。

また、昨年8月に策定した「岩国市観光ビジョン」では、平成34年における観光客数420万人を目標としており、目標達成に向け、空港発着枠増枠のメリットを活かすと同時に、観光資源の魅力向上や積極的な情報発信に努め、観光交流を促すことで、文化や産業の振興にもつなげていきたいと考えています。

一方で、愛宕山地域において国が整備を進めています運動施設につきましては、長年の念願でありました、高校野球の公式戦が開催可能な野球場の工事が、昨年10月に着工されました。今後は、フィールド内に人工芝のサッカー場を有する陸上競技場や、アリー

ナ・和室等を備えたコミュニティセンターなどの工事も順次着工となる予定です。こうした施設が、市民の皆様にとつて利用しやすいものとなり、日米交流を通じて、双方の絆をさらに深めることのできる、貴重な機会が得られる場となるよう、努めてまいります。

また、市が医療・防災交流拠点としてまちづくりを進めている区域につきましては、昨年12月に、消防庁舎と災害学習体験施設等を併設した、いわくに消防防災センターの建築工事が完了し、現在は、3月1日の運用開始に向けて準備を進めているところです。今後は、防災機能を備えた多目的広場の整備に着手することになります。

さらに、岩国駅につきましては、多くの市民の皆様の声に応え、東西自由通路の新設、駅舎のバリアフリー化、東西駅前広場の再整備などを中心とした、岩国駅周辺整備事業を進めているところです。昨年11月に、自由通路等や橋上駅舎の工事の安全祈願祭が行われ、いよいよ本体工事が始まりました。平成29年度末に、まず自由通路・橋上駅舎が完成・供用開始の予定で、その後、地下通路出入口改修や西口駐輪場連絡通路、東口駐輪場、東西駅前広場整備へと順次工事が進んでいくこととなります。その間、皆様にはご不便をお掛けすることになりますが、岩国駅

周辺が市の玄関口にふさわしい、次代を担う交通・交流拠点として生まれ変わるとともに、地域の活性化やにぎわいの創出にもつながることが見込まれる本事業の一日も早い完成を目指し、最善を尽くしてまいります。

これまで、まちづくりのビジョンを明示し、それに向かって行動してきました。まだ課題は残されていますが、岩国市のまちづくりの礎を築くことができましたと感じています。これからも、市民の皆様が夢と希望にあふれ、安心して安全に暮らすことのできるまちづくりを進めていく必要がありますが、少子高齢化のさらなる進展、人口減少が見込まれる中、まちづくりは、行政だけで進めるのではなく、地域の実情に精通した方々と「協働」して行うことが不可欠になっていきます。そのため、市の情報を積極的に提供し、市民の皆様と共に考え、それぞれの地域のニーズに対応した、心の通い合った地域づくりを進めていきたいと考えています。岩国の輝かしい未来を切り開き、新たな時代を創造し、岩国市がさらなる発展を遂げることができるよう、全力で取り組んでまいります。今年一年が皆様方にとりまして、明るく希望に満ちた年となりますことを心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



基地を抱えていても 日本一住みやすいまち岩国

岩国市議会議長

粟原敏幸

新年明けましておめでとうございませう。市民の皆様には、平成28年の新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、岩国市も平成18年の合併から、今年で早くも10年という節目の年を迎えることとなりました。当時は、山口県も「21世紀の新しいまちづくり」を掲げて合併を推進し、岩国市もさまざまな曲折を経て、1市6町1村が合併いたしました。

今年は、この10年間の一体感の構築に向けたまちづくりを検証し、これから、その実績を活かし、さらに市民一体になって明るく住みよいまちづくりを進めていかなくはなりません。

昨年、国においては、まち・ひと・しごと創生法が制定され、東京圏への人口集中や地方の人口減少等に対し、国が地方を支援しながら全国の自治体に自立した再生を促す施策が進みつつあります。

その中で、岩国市議会におきましても、昨年3月に地方創生総合戦略調査特別委員会を設置し、独創的でダイナミックな地域づくりを目的とした総合戦略を市長に提案いたしました。また、直接、石破茂地方創生担当大臣にも手渡しました。

また、岩国市においては、「ねんりんピック」や「世界スカウトジャンボ

リー」の行事が行われ、岩国市の素晴らしいさをアピールする事ができました。そして、長年の悲願であった、愛宕山野球場、岩国駅周辺整備事業、岩国駅東西自由通路及び橋上駅舎等にも着工する運びとなり、大きな飛躍への礎の年でもありました。

本年は、選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が6月に施行されます。したがって、夏、夏の参院選から18歳になった方の投票が可能になり、その後は、どの選挙にも投票できるようになります。

現在、20歳代の投票率が最も低くなっておりますが、少子高齢化に伴う年金・福祉などの若者の一生に直結する課題については、若者自身の声を政治に反映させることがとても重要です。

これを機会に多くの若い方々にPRし、主権者として選挙や政治に関心を持っていただき、主体的な社会参加をしていただきたいと思います。

岩国市においては、市民会館改修事業などに着手される予定となっております。

今までの施策を引き続き推進しながらも、中山間地域や中心地域とともに振興・活性化するよう、岩国の特色ある広域的なまちづくりを力強く進めると共に、各地域の交流促進の為に交通網・情報通信網の整備についても、ス

ピード感を持って進めていかなければならないと考えております。

現在、普天間基地移設計画をめぐる、国と沖縄県の間でさまざまなやりとりが行われておりますが、岩国市議会においては、「沖縄の基地負担軽減を図るための決議」を可決し、沖縄の基地負担の軽減をオール・ジャパンで考えることを全国に呼びかけております。

このことについては、基地を抱え、同じ思いを共有する自治体が発信することが大事であるとの思いで呼びかけを行っており、その趣旨は日本全国に必ず伝わるものと思っておりますので、引き続き行動してまいります。また、さまざまな問題を皆様と共に考え、取り組んでまいれる所存であります。

「基地を抱えていても日本一住みやすいまち岩国」を皆様に実感していただけるよう、本年も全力を傾注してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう、心から祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。